

第三段		
修学院離宮	亀安寺	唯一の宇宙である庭
境がない 自然の中に入る 自然と人間を区別しない 庭の中で生活していた	額縁の中にある 庭を見る 自然と人間を区別する 庭の中で生活しなかった	境のある世界 額縁の中に限られたもの ではない 庭の中に入る 人や一切を包む 庭の中で動き生き考える
<p>1 . 桂離宮の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見ることができない □ 庭の中に入ることができる <ul style="list-style-type: none"> ・建物や生け垣に遮られている。 □ x 庭を見る <ul style="list-style-type: none"> ・見る人間と見られる庭が別個のものとして対立している ・もう一つの世界の中にいる自分自身を見いだす ・庭の中に人間が包まれている。 □ x 風景が書院に向かつて開いている <ul style="list-style-type: none"> ・書院が風景の中にある □ x 人は風景に対してしている <ul style="list-style-type: none"> ・人は第二の自然の中にいる <ul style="list-style-type: none"> ・もう一つの世界 <ul style="list-style-type: none"> ・額縁がない。 ・境はあるが、境は無限に遠い。 ・第二の人生である夢 <ul style="list-style-type: none"> ・この世のあらゆるもの <ul style="list-style-type: none"> ・自然素材の美しさ。 ・人間的な形式の美しさ。 ・この世の秩序とは異なるある秩序 ・覚めた、明晰な、精神に訴える夢 □ 桂では目が考える <ul style="list-style-type: none"> 感覚 思考 <p>2 . 桂離宮の中心</p> <p>月波楼・海 賞花亭・森と峠 笑意軒・田園風景 松琴亭・山水 新書院・芝生と日常生活</p> <p>古書院の月見台</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部分が部分として、それぞれ独立の役割を果たしながら、全体の秩序に奉仕している ・全体の秩序、統一、調和。 		